

事例④ 4つの視点『 のびのび 』 5歳児クラス・9月
期のねらい「友達とのつながりを深めながら、ともに遊びを工夫して楽しむ。」

「みんなで作るダンスホールー仲間とアイデアを伝え合い広がる遊びー」

園のくらし、子どもの姿

“のびのびと元気な子”を目標に、子どもの素直な心をそのままに一人ひとりを大切に育てて伸ばす保育を心掛けています。入園当初から、言葉を使って気持ちを伝え合うことや、友だちを思いやる気持ちを育むことを大切に、園生活を送ってきました。

5歳児クラスになってからは、友だちの輪の中で自分の気持ちを言葉にすることが増え、自分より小さな友だちへ思いやりをもつ姿が見られるようになりました。5歳児クラスでは、遊びの後にサークルタイム（子どもたちによる話し合い）を実施しています。今日の遊びについて話し合う中で、何が必要だったか、次はどのように進めていくのかなど、自分の意見を伝え合う姿が見られています。

あそびのはじまり

保育者が音楽を流し、クラスの子どもたちと踊りを楽しみ始めたことをきっかけに、ダンスホールづくりが始まりました。「お客さんと呼んで、見てもらおうよ」「大きな幕があったらいいな」子どもたちで意見を出し合って、必要な材料や道具をそれぞれが集めていく姿が見られました。“自分たちで考える”ということを大切に、材料の用意、保育室内の遊びの設定、役割決めなどを子どもたちが自ら話し合い、遊びを進めています。

あそびの広がり、あそびの深まり

《子どもの様子》

■お友だちに招待状を書いているところ



■ステージの準備、振り付けの確認



右手はこう！

■アイデアを出し合って自分たちでルールをつくる



踊る人が脱いだ靴を置いておく場所をつくろう！

《保育者の お願い・思い ◎配慮事項》

○友だちと協力して準備をしながら、居場所をみつけ、達成感を味わってほしい。
○友だちと楽しく遊ぶ中で、数字や文字への興味・関心を広げてほしい。
◎数字や平仮名に、苦手意識などをもっている子もいるため、友だちが書いている様子を見て、興味関心をもてるよう声掛け、必要があれば援助を行う。

○遊びの中でアイデアを出し合いながら、自分の考えや思いを素直に伝えられるようになってほしい。
○友だちと気持ちを伝え合ったり、友だちの意見を取り入れたりすることで、遊びがより豊かになる経験につなげたい。
◎自分の気持ちを素直に表現することが難しい子には、見守りながら仲立ちしたり、代弁したりする。

○遊びの中で必要なルールや、環境設定等を自分たちで考え、言葉で伝え合ってほしい。
○友だちの様々な考え方に触れ、賛同、共感、意見するという経験をしてほしい。
◎安全に配慮し、見守りながら、一人ひとりの考え方、つばやきに丁寧に応答する。
◎更なる遊びの発展を見守る。

学びの芽生え、10の姿につながるポイント

① 安心して思いを表現できる関係性の中で、豊かな伝え合いが広がる（9 言葉による伝え合い）

自分の思いを言葉で表現することは、少し勇気のいることでもあります。子どもたちは、話し合うことを通して、自分の伝えた言葉を相手に受け止めてもらう、という経験を日常的に積み重ねています。保育者や友だちと関わる中で醸成される、こうした安心感や信頼感が、言葉による伝え合いを支えています。

② アイデアを出し合うことで、遊びがもっと楽しくなる（6 思考力の芽生え）

「大きなステージを作りたい」「お客さんによろこんでほしい」。遊びが充実していく中で、イメージが広がり、“もっとこうしたい”思いが子どもたちの中に溢れます。仲間とアイデアを出し合うことで課題を乗り越え、遊びがより一層楽しくなる経験は、また新しい課題へと向かっていく意欲を高めることにもつながっています。

《教材等の工夫》

■異年齢で遊ぶ中で思いやりの気持ちが育っていく

5歳児のAちゃんは、ショーが始まるのをじっと座って待っている3歳児クラスのお客さんの様子に気が付きます。「待っている時間も楽しくなるように、小さいお友だちの好きな絵を描いてあげようよ！」Aちゃんは、クラスみんなに提案します。「それ、いいね！」周りの子どもたちにも、Aちゃんの素敵なアイデアが広がって、たくさんの子が3歳児クラスの子どもたちのために段ボールの壁いっぱいに絵を描きました。

Aちゃんも、クラスみんなも、小さいお友だちも、うれしい、楽しい気持ちに包まれていました。

小さいお友だちの好きな絵を描こうよ！



待っている友だちも楽しめるように…

■これまでの遊びの経験が、多様なアイデアの種になる

最初は大きな布を幕に見立て、自分たちで掲げながら開いたり閉じたりして遊んでいました。継続して遊ぶ中で、「布を手でもつのは大変」「ちゃんと隠れない！」と、布では満足できなくなってきた子どもたち。どうしたらいいか、みんなで考えを出し合いました。「板ダンボールをもってこよう！」これまでの経験を思い出し、大きな板段ボールをみんなで探し運び入れることに決めました。



「板段ボールを幕にしよう」アイデアを出し合って

保育者の気付き、その後の子どもの育ち

5歳児クラスになり、これまでの園生活の中で経験してきた様々なことが、遊びや生活に生かされていると感じられる姿があちこちでみられるようになりました。遊びが充実することで、友だちとの言葉による伝え合いが豊かに繰り返され、更なる遊びの発展へと結びついていきました。

小学校教育との円滑な接続

特別活動 学級活動（1）では、学級を楽しくするために、役割を意識して楽しんで集団活動に取り組もうとする態度を養います。幼児期に自分の考えを受け止めてもらった経験を基盤として、よりよく伝え合う学習へとつながっていきます。

本事例とつながりが深い「10の姿」

6 思考力の芽生え

9 言葉による伝え合い

小学校教育活動との関連

第1学年 特別活動
「～集会をしよう」等